



今年は日本国憲法公布80年



【二股質問】

日本国憲法（抜粋）

前文

日本国民は、政府の行為によって再び戦争の惨禍が起ることのないようにすることを決意する

9条

1項 国権の発動たる戦争と武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する

2項 陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない

真の平和とは

戦争がなければ平和と言えるのか

日本国憲法は、2,000万人を超すアジアの人々、300万人を超す日本国民が犠牲になった、先の戦争の深い反省のもとにつくられ、「二度と戦争はしない」「そのための武力は持たない」「紛争解決のために武力は使わない」と世界に向けて誓いました。

ところが、世界で紛争が絶えない中、日本は、防衛予算を増やし続けています。専守防衛から、他国を

攻撃できる兵器の購入、開発、輸出まで始まっています。

日本本土が戦場になることを想定した自衛隊施設の整備、多くの隊員の死傷を想定した訓練まで進められています。

抑止力に頼った平和は軍拡競争のジレンマに陥り、一触即発の危険と隣り合わせとなります。

国の予算が際限なく軍事に投入され、国民生活が破綻します。

たとえば、戦争が起これなくとも、それを平和と呼べるでしょうか。

平和行政のさらなる推進を

現実が、日本国憲法の理想から遠ざかり、政府主導で憲法を改正しようとする動きが強まっています。今、地方自治体こそが住民の暮らしと平和を守る砦となることが求められています。

◆大谷市長

本市は、日本国憲法の恒久平和理念に基づき、非核3原則の堅持を求め、あらゆる国の核兵器が完全に廃絶されることを心から願い、核兵器の廃絶と人類永遠の平和を希求することを目的に、平成8年に核兵器廃絶平和都市宣言を行った。平和の尊さを次の世代に継承する市政運営に取り組んでいく。

日本共産党

ひたちなか市議
宇田たか子

6月議会報告

東石川3227-11
☎090-2764-6461

ご意見・ご要望、暮らしのご相談などお気軽にお問い合わせください。

uda.takako
@gf7.so-net.ne.jp



国民健康保険税

子どもの均等割をゼロに

所得が変わらないのに、毎年保険税が上がっていく。これでは、暮らしのいのも守れません。

現在、未就学児の均等割は国の制度で5割減免ですが、市は県の交付金を財源に18歳まで5割減免しています。

令和9年度からは、国の制度として18歳までの5割減免が決ま

百里基地では外国軍との軍事訓練 基地の機能強化が進む

県は、観光客受け入れ拡大のために茨城空港に新たな誘導路を計画しています。しかし、完成すれば、防衛省に移管され、百里基地の機能強化につながります。

軍民共用の航空自衛隊百里基地では、近年アメリカだけでなくオーストラリア、ドイツ、インド、カナダ、イギリス、フランス軍などと自衛隊との軍事訓練が何度も行われています。

政府は、2027年度以降に、敵基地攻撃が可能な長距離ミサイルを、百里基地に所属するF2戦闘機に配備する方針です。

軍民共用の茨城空港

百里基地が戦争の前線基地となり、報復攻撃の危険も高まります。そのため、政府は戦闘機の隠ぺい施設や基地の地下シェルター化などを進めています。

「国の専権事項」と、思考停止になってはならない

民間の空港開発と軍事基地の強化が隣り合わせで進められていることは、容認できることではありません。

◆大谷市長

国家安全保障に関する政策は国の専権事項であり、国においてしっかりと議論が進められていく事柄である。

りました。

■宇田議員

県の交付金をあわせて使えば、子どもの均等割をゼロにできる。

◆保健福祉部長

国県の動向を注視し、来年度に向けて最適な事業や県の特別交付金の活用方法を検討する。



住民のいのち、暮らし、財産を守る
ことが市の役割

地域公共
交通計画

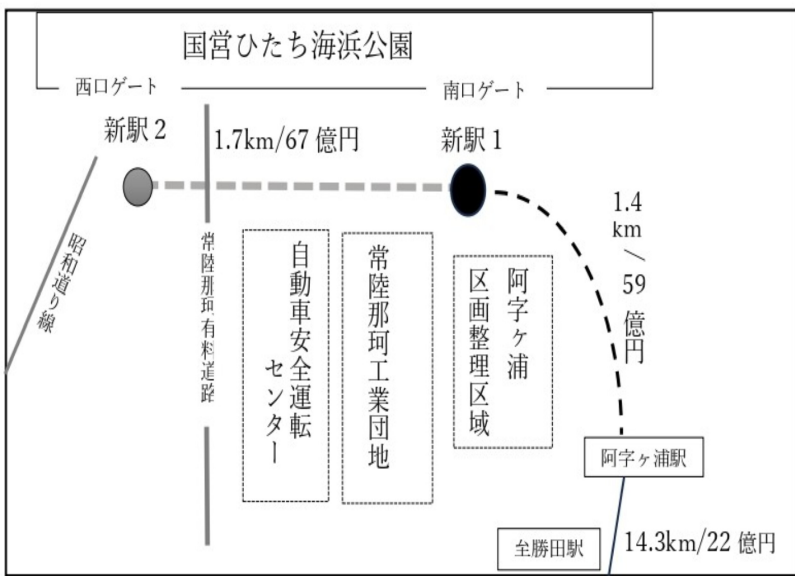
R8～R12

誰もが安心して暮らし続ける ことができる計画か!?

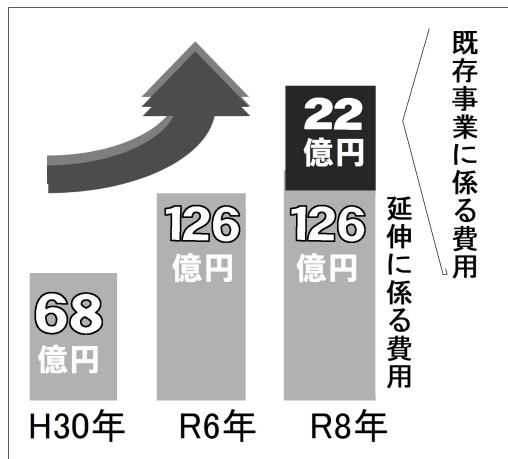
増える事業費

湊線鉄道事業再構築事業

延伸**126**億円 + 既存部分**22**億円



148億円 + 〇



湊線、存続のために延伸ありき

通院や買い物はもとより、さまざまな目的の外出などを含め、「移動の自由」は、健康な人、お金のある人の特権ではありません。誰もが享受できる権利であることは、日本国憲法の「基本的人権」「幸福追求権」から、導き出されます。それゆえ、交通弱者への施策の充実が自治体には求められていると考えます。

延伸の総事業費は当初68億円、コロナ禍後、物価高騰で126億円に跳ね上がりました。その後、さらに物価が高騰していますが、再試算していません。更なる事業費の高騰は必須です。

湊線、延伸して大丈夫か

■宇田議員

事業費の高騰による事業の見直しの考えは？

◆企画部長

詳細設計の中で、状況に応じて事業費縮減や施工の効率化が必要と考えているが、現時点では判断する時機ではない。

市は、「延伸しなければ毎年赤字」「延伸すれば、経営が安定する」と言いますが、本当にそんなバラ色の未来が保障されるのか疑問です。
延伸せずに、湊線を存続させる方策に知恵を絞るべきではないでしょうか。

生活交通の充実を

計画策定にあたり市は、「スマイルあおぞらバス」を利用して人は満足度が高い、利用しないのは情報が不足しているから」とだと総括しました。そのため、抜本的などりくみとはなりません。

情報発信の強化

にとどまる

スマイルあおぞらバスの施策の柱は

*乗換案内アプリ等で検索できるようにする。

*紙製のマイ時刻表を作成する。

その他、

公共交通を

補完する施策は

未定

市は、「既存の公共交通ネットワークを基本とした上で、移動ニーズの

*バス停以外で乗降できるフリー乗降制度を検討する。
*最寄りのバス停まで自転車でアクセスできるサイクルアンドライドを検討する。

●一方、「便数の増加や路線の拡大は慎重な検討が必要」と消極的です。

変化に柔軟に対応できるよう、新たな技術の導入を検討する」としています。

一番望まれるのは、ドアツードアの予約型デマンドタクシーを安価で実施することやタクシー補助券ではないでしょうか。

高齢になってもだれもが安心して暮らし続けられるまちなかになるよう、引き続き施策の充実を求めています。



一般質問
討論全文はブログ



一般質問
録画中継は市HP

